



田園風景の中、神々ゆかりの地に行く
明和町・松阪市

両機殿神社付近

明和町と松阪市の境界近くにある神服織機殿神社（下機殿）と神麻続機殿神社（上機殿）の付近は、広々と続く田園風景の中に、神社や集落が点在します。今回は、本居宣長記念館名誉館長の吉田悦之さんのご案内で、明和町にある明和町コミュニティバス「イオンモール明和」バス停をスタートし、両機殿付近をぐるりと回って、バス停に戻るコースをめぐるります。「この辺りは、櫛田川と祓川の三角州に当たる地形で、治水の苦難の歴史があります。また古代には、延喜式に載るいわゆる式内社が多数存在しました。そんな神さびた面影を追って歩いていただけると良いと思います」と吉田さん。のどかな田畑の間を、お宮から次のお宮へ、ゆったりと歩きます。

取材・文：堀口裕世

明和町と松阪市の境界近く

明和町の西端にある明和町コミュニティバス「イオンモール明和」バス停からスタート。敷地の南側にある歩行者用の小さな出入口から裏の道に出て、松阪市に入っていきます。今回歩く道の多くは農道で、通行量は多くありませんが、歩道はなく自動車も通りますので注意して歩いてください。

田園風景の中にこんもりと丸く茂る大きな杜があるのは、伊勢神宮の所管社・神服織機殿神社（下機殿）。まずはこの杜に向かって歩き始めます。この杜



「イオンモール明和」内のバス乗り場



歩行者用の出入り口から外へ



福井文右衛門の石碑



神服織機殿神社の鳥居



鳥居前から南へ、道はまっすぐに続く

の外側、北東の角にあるのが福井文右衛門石碑です。「文右衛門は江戸初期に名張藤堂家から遣わされたこの辺りの代官です。神域を侵さないように迂回して水路がつくられていたため、この付近では稲作が難しかったのを見かね、一夜で神域を通る水路を建設し、その後切腹して責任を取ったといわれています。地元の恩人ですが、墓所は名張市にあるようです」と吉田さん。豊かに広がる田園風景はこの人のおかげなのだ感謝を胸に、杜に沿って続く小道をたどり、下機殿の鳥居前へ。「ここは、神宮の125社の一つで、神御衣祭にお供えす

る絹の御料を織る神社です。毎年5月と10月のお祭りの前には、今も神様にお供えする和妙（絹布）が地元の人々によって織られています」。

下機殿から天香山神社へ

下機殿の鳥居の前から、水田の中をまっすぐに続く道を、前方に見える保津町の集落に向かって歩きます。家並みの中心付近を通る道を進んで行くと天香山神社の前に出ます。「ここも式内社と祓川の間に15くらいの神社が載せられています。稀に見るたくさんの神々



本居宣長記念館名誉館長の吉田悦之（よしゆき）さん。「歴史には謎が多いのですが、その地を歩くと感じるものや発見があります。楽しんで歩いてください」。





天香山神社



光安寺。左の小さな建物が薬師堂



大国玉神社



大福寺山門



神麻続機殿神社

が鎮座する場所だったようです。多くの神社が洪水や合祀ごうしなどによって変化していますが、この辺りの神社の多くが古い由緒を持つ式内社なのです。この隣にあるお寺は光安寺。ここの薬師堂には、かつて福井文右衛門自刃の刀が収められていたということです。すぐ近くに名張藤堂家の代官所の跡地もあります。

おおくにたま 大国玉神社から上機殿へ

続いて、また田園の中を右手前方の六根町こんちやうに向かいます。この集落の西側にあるのは大国玉神社です。「ここの式内

社です。この付近の氏神で、明治時代はいくつかのお社がここに合祀されました。隣にあるのは大福寺。町の中央を東西に走る道を右に折れて、神麻続機殿神社（上機殿）に向かいましょう。」

また広い田園風景の中を、上機殿の杜をめざして歩きます。「上機殿神社は、荒妙あらなえ（麻布）を織る神社です。下機殿と同じく、神宮の神御衣祭の前には地元の方たちが誇りをもって布を奉織されています。江戸時代この付近は木綿の産地であり、古くから織物が盛んだったということです。二つの機殿神社は、戦国時代に神宮の奉織が途絶えたことなど

がありました。が、藤堂藩によって再興され、江戸時代には織物の神様として遠方からも参詣者を集めたようです。静かな機殿神社にも、長い歴史の中では揺れ動く時代の波があったと、時の流れの重みを感じながら、上機殿神社の前から西方向に向かい、県道706号に出て、北方向に進みます。

人柱の悲しい伝説

少し進むと、右に分かれていく道があります。その分岐点近くに藤八翁とうやう頌徳碑があります。「櫛田川は昔は暴れ川だったのです。文政5（1822）年、堤防工事

やまひめのこと 倭姫命が名付けた社

魚見町の一角に杜の茂る魚見神社うおみがあります。「昔、倭姫命が船で櫛田川を下つてこられたとき、魚が自然に集まって船に飛び乗ったので、姫が喜ばれ魚見社をお定めになったと『倭姫命世記』にあります。魚見神社ももちろん式内社です。ここから、スタート地点に戻る道のりになりますが、長く歩きましたので、休憩を兼ねて、魚見橋の中央辺りまで出て魚影を探してみるのも良いかもしれませんね」。魚見橋は長い橋で、脇に歩行者用の細い橋があります。中央に向かって

少し歩くと視界が開け、川の風景が楽しめます。倭姫命の気分で川景色を楽しんだら、魚見町を離れ、県道706号を新開町の方向に進みましょう。

新開町の家並みの中を右へ折れ、最後の立ち寄り先、室垣むろがき不知元神社へ。一度大国玉神社に合祀され、また戻ったというところで、やはり古い由緒を持つ神社です。ここを出れば、もうゴールが見えています。神々のやどる古い時代のおもかげと、水と闘った人々の物語が交差する風景の中を出発点に戻りましょう。

問 松阪市観光協会
TEL 0598-23-7771



藤八翁頌徳碑



魚見神社



魚見橋



櫛田川の風景



室垣不知元神社